

がんの基礎知識シリーズ②

〈子宮がん〉

〈どんな病気?〉

子宮がんには、子宮頸がんと子宮体がんの2種類があり、原因や症状が異なります。

	子宮頸がん	子宮体がん
がんのできる場所	子宮の入り口である頸部の上皮(表面の細胞)から発生	子宮の奥にあたる体部の内膜から発生
年齢	30~40代に多い。40歳以上は年々減っているが、20~30代で増加傾向にある。	50~60代に多い。年々すべての年齢層で増加傾向にある。
原因	HPV(ヒトパピローマウイルス)というウイルスへの感染。	高脂肪食の摂取や女性ホルモンのバランス異常。
症状	不正出血、異常なおりもの	不正出血、異常なおりもの

〈検診方法は?〉

「子宮がん検診」と呼ばれているのは、子宮頸がん検診のことです。問診・視診・内診・細胞診です。子宮体がん検診は問診などの結果、必要と認められる場合に行われます。

細胞診は、子宮頸部の表面を綿棒などで、軽くこすって細胞を採り、顕微鏡で調べる検査です。

子宮がんは、初期にはほとんど症状がなく、自分では気づきにくいですが、定期検診で早期発見しやすいです。また、不正出血等の気になる症状があると

きは、速やかに医療機関で診察を受けることをお勧めします。

〈子宮頸がん予防ワクチン〉

子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が関連しているといわれています。

HPVは、100種類以上のタイプがあり、このうち子宮頸がんの原因となるのは15種類ほどで、現在認可されているワクチンは、このうち2種類(16型、18型)の感染による子宮頸がんに対して高い効果があるとされています。発がん性HPVに感染する可能性の低い10代前半に子宮頸がん予防ワクチンを接種することで、子宮頸がんの発症をより効果的に予防できると言われています。そこで、笠間市では、平成23年度は、中学1年生から高校1年生の女子を対象にワクチン接種の助成を行っています。(※平成24年度は、中学生のみとなります。また、現在、子宮頸がん予防ワクチンが全国的に不足し予約できない状況でご迷惑をおかけしております。7月下旬には安定供給できる予定です)

ただし、ワクチンを接種しても、すでに感染しているHPVを排除したり、前がん病変の進行を予防する効果はありませんので、がん検診との併用が重要です。

笠間のがんばる企業紹介③③

市内で活躍する企業を支援するために結成された「笠間市がんばる企業応援連絡会」。このコーナーでは、連絡会に加入している企業の皆さんを紹介します。

株ヨネキン

今回は、大阪に本社を持ち関東工場として安居地区で平成4年より操業する株ヨネキンを紹介します。関東工場操業当時から勤務されている製造課の宮下茂樹課長にお話を伺いました。

〈関東工場として笠間市を選ばれたのはどうしてですか?〉

以前は大阪の本社工場で製造したものを関東のメーカーなどに送っていましたが、関東で自社工場を持ちたいと考え、平成2年から操業していた真壁郡明野町より当地に移転しました。

この安居の土地は、近隣ののどかな環境や岩間インターから近い立地条件ということで、知人から紹介されたものです。



関東工場外観

〈関東工場で製造しているものを教えてください。〉

主に住宅の外壁や屋根などを中心とした外装材周辺の金属部材を製造しております。また、阪神大震災や中越沖地震・雲仙普賢岳噴火災害の時と同様、今回も東日本大震災によって必要とされている仮設住宅の屋根材

や外壁カバー等の部材を生産しております。ただ震災の混乱からか、発注先からの情報が日々変更されるなど、必要な部材を製造するのにも細心の注意を払っている状況です。



工場内部

〈会社の理念や方針は?〉

「常に顧客の満足する価値ある商品を提供し、社員の幸せと事業の発展をめざし、広く社会に貢献する」を理念に「個々の責任ある行動と継続的改善により顧客満足度の向上を目指す」という品質方針を毎朝唱和するよう心がけています。この方針をもとに、社員には失敗を恐れずに思い切りやることを伝えていきます。また、社長は社員一人ひとりを大切にしており、特に震災当時には細かい気配りをしてもらいました。

社員の意識向上と信頼関係がより良い製品を提供できるものと信じています。

株ヨネキン 関東工場

所在地：笠間市安居3139-20

従業員数：38人(パート含む)

※文責▽笠間市役所企業誘致推進室(内線214)